

JAカレッジ



2011.1

No.62

発行/北海道農業協同組合学校 校友会

〒069-0834 江別市文京台東町43-1 ☎011-386-4331 FAX011-387-1715

## 年頭の挨拶



# 支部行事・同期会の交流を通じて 校友会の発展のため一層の協力を

北海道農業協同組合学校 校友会会長 栗林 貞信

新年明けましておめでとうございます。

会員の皆様には、ますますご健勝にて希望と決意を新たに、新しい年をお迎えのことと、心からお慶び申し上げます。

昨年を振り返ると、国際面では、世界的な株安、欧州の財政の深刻化の懸念、中国の一層の台頭などがあり、国内政治・経済面では、経済の停滞と雇用の不安、これらと軌を一にした政治の混乱など、まさしく八方塞がりの閉塞感の中にあります。

こうした中で、WTO農業交渉や日豪EPA交渉の動きは、北海道農業にとって影響極めて大であり、予断を許さない重大問題であるとしていたところ、これに追い討ちをかけるがごときTPP「環太平洋経済連携協定」参加問題が突如として出現し、そして間断な

く受入方向の政府声明がなされる事態に農業関係者はもとより第一次産業のウエイトの高い北海道の行政機関そして関連団体を含む広範な商工関係団体を含め阻止のための世論づくりに奔走されています。

昨年は、夏以降の記録的な猛暑と多湿に加え局地的な豪雨などによって、畑作物をはじめ酪農畜産などに多大な影響が及び一昨年に続き、期待していた出来秋を迎えることができなかつたところであり、それだけに新年度への期待が一層高まる所でもあります。

また、JAについても、「独占禁止法の適用除外見直し」の動きとともに、「信・共分離論」が行政刷新会議の規制・制度改革の中で、再燃していますが、これまでのJA人生の中でどれほど仄聞し、そして小康を得てき

たことでありましょうか、これまでに何とか食い止めることができたのは、JAグループの関係者はもとより、その支援・協力者があればこそとすれば、前段の動きに対し幅広い層への働きかけを通じての世論醸成が一層求められます。

さて、母校JAカレッジは、昭和45年に北海道庁から移管を受け、系統農協唯一の教育施設としてスタートし、以後養成科の卒業生は、協同組合運動の担い手として全道各地のJAを主体に活動されていますが、昨年40年という記念すべき年を迎え、これを機に『協同組合教育：40年のあゆみ』を刊行され、さらなる発展を祈念されたところであり、本校友会としても図書室の改修に協力を致したところで、心からお慶びを申し上げます。

校友会は、支部組織12を擁していますが、現今の社会経済情勢の変化を受けて、その活動状況に格差が顕在化しつつあり、各支部役員各位が腐心されているところでもあります。その一方で、卒業期別すなわち同期別の

交流については、卒業期の古くなるにしたがって、やや旺盛とも聞き及んでいますので、これらの動きをみつつ本部組織のあり方についても検討を余儀なくされつつあります。

すなわち、本年度は41期生として卒業されることが予定されていますが、道立農協講習所の旧卒業生の最後が52期であったことを振り返るとき、逐年その期に近づきつつあり感慨深いものが過るところであります。

校友会活動も母校との連携を図りながら展開して参りますので、会員の皆様には、それぞれの立場でのご支援とご協力をお願い申し上げますとともに、会員皆様のご健勝とご活躍を心よりご祈念申し上げます。



新年のごあいさつ



職務名	氏名	所属
事務局長	中西 一	農協学校・総務部
局長	伊藤 清	農協学校・中央会
監事	松久 和	ホクレン・札幌支部
"	水間 道	北農中央会
"	長縄 弘	全共連北海道
幹事	石岡 清	ホクレン
幹事幹事長代行	及川 修	北海道信連
幹事	高橋 英	札幌支部・北海道信連
"	坂本 多	空知支部
"	遠藤 浩	道南支部
"	川野 信	宗谷支部
"	豊蔵 信	留萌支部
"	茂野 宏	日高支部
"	木田 和	中標津支部
"	乾 信	帯広支部
"	今村 幸	釧路支部
"	山口 幸	石狩支部
"	吉田 三	後志支部
"	館内 康	上川支部
"	野上 好	札幌支部
"	堀地 幸	札幌支部
"	室松 登	札幌支部
"	水勝 美	札幌支部
"	栗林 貞	札幌支部
"	板橋 好	札幌支部
"	足助 洋	札幌支部
顧問		
副会長		
会長		



平成23年度(第42期)学生

**入 学 試 験 結 果****189**名の応募者中 **66**名の合格者を発表

平成23年度の養成教育課程の入学試験は、平成22年12月13日～15日に実施しました。応募者は216名(最終受験者189名)で、学科と面接を行い、「新しい時代を担う「はつらつ」とした人材を育成する」ことを第一義選考基準として選考しました。

**主 な 特 徴**

- 応募者のうち4年生大学卒者が占める割合は5割。
- 応募者のほとんど(9割5分)が一般応募者。

**応 募 者 と 合 格 者 の 割 合**

( )内は女子

学 歴	受 験 者 (名)	合 格 者 (名)
大学卒業・見込	96 (7)	33 (2)
短大・専門学校卒業・見込	23 (2)	3 (0)
高校卒業・見込	70 (9)	30 (6)
合 計	189 (18)	66 (8)

